

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究) シート

法人名	国立大学法人大阪大学	学部・研究科等名	薬学研究科
-----	------------	----------	-------

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例④「効果的な学外との連携による教育の質の向上」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

平成10年度より招へい教員として、連携している大阪府立成人病センターから2名、国立循環器病センターから2名に加え、平成18年度より彩都に設置された医薬基盤研究所から3名を迎え、学外との連携を充実させてきた。

これまでこれらの機関を始め、多くの大学・機関に大学院生を派遣することにより、学外との連携を図ってきたが、それに加えて、平成20年度、平成21年度には、大学院生を学外の機関にインターンシップとして派遣することにより、さらに連携を強め、教育の質を向上させた。平成19年10月からの大学院教育改革支援プログラム（現名称：組織的な大学院教育改革推進プログラム）「創薬推進教育」の一環として、医薬基盤研究所において、平成20年度に35名、平成21年度に41名、また理化学研究所神戸研究所において、平成20年度に3名、平成21年度に8名の大学院生がインターンシップを行った。

このインターンシップは、平成19年度以前には行われていなかったものであり、これにより大学院生は、薬学研究科に設置されていない最新機器を用いた解析技術を修得するとともに、最先端の研究現場を体験し、創薬とイメージングに関する研究能力を向上させることができた。その成果の一部は、平成21年2月9日開催の「第2回創薬とイメージングに関するシンポジウム」にて発表された。また、これらの連携により顕著な研究成果が得られ、多くの学術論文として公表された（平成20年度21件、平成21年度16件）。

医薬基盤研究所でのインターンシップ実施学生

平成20年度（M：博士前期課程、D：博士後期課程）

研修テーマ	学生数
ナノマテリアルの安全性評価と安全性確保基盤の確立	M学生4名
プロテオミクス技術を活用した医薬品・DDSの開発	M学生5名
遺伝子導入・発現制御技術の開発とワクチン・遺伝子治療・再生医療等への応用	M学生11名 D学生5名
疾患関連たんぱく質の有効活用とその基盤技術の開発	M学生3名 D学生5名
低容量アルキル化剤の発がん抑制メカニズムの解析	M学生1名 D学生1名
計	35名 (内訳：M学生24名、D学生11名)

平成21年度（M：博士前期課程、D：博士後期課程）

研修テーマ	学生数
ナノマテリアルの安全性評価と安全性確保基盤の確立	M学生7名 D学生2名
プロテオミクス技術を活用した医薬品・DDSの開発	M学生1名
遺伝子導入・発現制御技術の開発とワクチン・遺伝子治療・再生医療等への応用	M学生8名 D学生4名
疾患関連たんぱく質の有効活用とその基盤技術の開発	M学生9名 D学生4名
低容量アルキル化剤の発がん抑制メカニズムの解析	D学生2名
安全なワクチン開発基盤技術の開発研究	M学生1名 D学生1名
医薬品等の安全バイオマーカーの探索と応用	M学生1名 D学生1名
計	41名 (内訳：M学生27名、D学生14名)

理化学研究所神戸研究所でのインターンシップ実施学生

平成20年度（M：博士前期課程、D：博士後期課程）

研修テーマ	学生数
創薬とイメージングに関する技術研修	M学生3名
計	3名 (内訳：M学生3名)

平成21年度（M：博士前期課程、D：博士後期課程）

研修テーマ	学生数
創薬とイメージングに関する技術研修	M学生7名 D学生1名
計	8名 (内訳：M学生7名、D学生1名)

(資料)

大学院教育改革支援プログラム
「創薬推進教育プログラム」
平成19～21年度実施報告書及び
各分野からの報告（出典）